研修会１回目：峯山良平氏講演「斜めからのまなざし」

峯山氏講演のアンケート記載コメント

・生活リズムの改善、栄養が基礎、大切さ（色んな人がいて、社会は世の中は、すてたもんじゃないと感じてほしい）フリースクールの子ども達との関わりで普段から感じていること。早寝・早起き・朝ごはんの大切さを改めて感じました。ここが整うことで本人の意識が意欲が出てくるし、広がっていくと実感しました。
・ひきこもり・不登校に訪問看護があることが知れた。
・自分の体験があるため、相談者の気持ちがとても理解して接している所
・人との関わり方の大切さ　改めて勉強になりました
・プロセスとその理由まで説明があり、支援時に役立つ感じたため
・支援の仕組を最後まで本気で考えて実行されているのが伝わってきた。行動指針が私自身の考えと重なりました。
・わかりやすかった
・不登校・ひきこもりの子の訪看の支援について知ることができてよかった。
・就労を意識された支援をされているところ
・内容が具体的でイメージしやすかった
・就労移行支援との関わりを知ることができて良かったです
・自身の経験から事業展開され、ひとりでも多くの方を初会復帰できるサポートをされていて勉強になった。
・現在友援している利用者様に結びつく内容もあり、今後の支援につなげて行きたい。
・不登校の児童にはその児に合った関わりが必要
・支援の具体的イメージが出来、訪問看護がどういうものか理解出来た
・実態とその対応事例を知ることができて良かったです。
・具体的な支援が勉強になりました
・精神科訪問看護で大切な事が分かりやすかった
・関わり方、アプローチの仕方が勉強になりました。
・研修を受けさせてもらったことで、不登校・ひきこもりの子供に対するイメージが緩和されました。ありがとうございました。
・不登校や引きこもり介入支援で考え方や対応方法がとても勉強になりました
・関わり方がためになりました。
・会社として取組みと訪看の取込みを具体的に聞くことができ、実践してみたい内容が多数ありました。
・訪問看護の役割が幅広いことに驚いた。
・訪看の利用役わりについて、理解できた。早目の支援が大切だと感じた
・訪問看護の立ち位置が明確で、その後の就労やその方の生き方につなげていく方法や過程が知れてよかったです。ありがとうございました。
・訪問時の傾聴について、日々行っている事ですが、お話がききたかったです

・これから事業拡大に向けて、心して個人（看護）と向かい合いながら支援する事の大切さを学んだ。
・わかりやすかった。症例も含めてあり、良かったと思う。
・訪問介護の取りくみがわかった
・新しい不登校支援として、早い段階で必要な親子に利用できたらいいなと思った。宮崎はまだまだ不登校支援も充実していないので広まってほしい。
・社会とのつながりを取り戻す際に、どうしても「通所」等の人と直接コミュニケーションをとらなければならない場に目が行きがちですが、オンラインで完結できる就労の仕方があることに興味をもちました。

トークセッションのコメント
・本音で話し、力になる
・当事者の気持ちが聞けて良かった。
・理解することの大切さ。作業しながらのおしゃべり
・傾聴、相手に興味を持つ等難しいことですが大切な事と再認識しました。
・具体的なお話がきけてよかった。
・支接するために、まずはなかよくなる、似ていることをさがす、など共感できる所が多かった。
・お二人のお人柄、優しさがを伝わってきました。子ども達や当事者さん、ご家族に対するお気持ちや姿勢など、参考になりました。
・傾聴・共感感の話が良かった
・単に傾聴共感するのではなく、誠実に関わることが大事であることを改めて学んだ
・専門職同士でのつながりがなかったため、必要に応じて連携を図り支援の幅を広げていきたいと感じた。
・リアルな声を聞けて良かった
・信頼を得る、関係性と構築する上で、お互いを知る・自分を話すことで（自己開示）相手も話すことがある等、私達の訪問での最初の段階を捉えており、共感出来るトークでした。
・尊厳を大切にして、一緒に遊ぶ楽しんで信頼関係を構築することが大切だと思いました。
・支援者としての在り方や心持ちなど、自身のスタンスを振り返ると同時に、今後、どうしていきたいかを考える上で、とても参考になりました。
・支援者同士のつながり、共通認識をもつことの大切さを再確認した。
・人と人のつながり、信頼をつくっていくための関わり大切だと再認識させていただきました。
・看護者（利用者）が無意識に日常生活に携さる機会を作れるかを寄り添いながら、支援させる事を学んだ。
・色々な形の支援の仕方があり、選択肢も増やせた。
・包括的に関連できる専門職が増えることで、よりピンポイントなアプローチ

がでとるのではと考えました。

イベント全体のコメント
・早い段階でのつながりの大切さ・理解の大切さ、居場所に信頼関係→仲良くなれる
・貴重なお話しありがとうございました。
・社会全体が型に合わせたり、他人と同事をさせるを良しとする指導が主流で個人に合わせたり、待つといった行動はできないと感じてました.
自分が今まて働いていた所は自分に合わず苦しくなり、結果やめましたが、こんな自分の目指す事に近い思いを実現されている方がおられるのを本当に嬉しかったです。この機会を企画して下ってありがとうございます
・普段の業務に生かせそうな話もあり、学びになりました。ありがとうございます。
・訪問看護のスタッフと利用者との距離感の大切さ、言葉（発する言葉）発言の大切さ。スピード感と対応力、その対象者の居場所の確保の流れをつくることの大切さ。
・対話・アプローチの仕方のヒントが学べた
・他の職種（一般職や行政など）に対して発信力が大きいと感じました。
小さなことの積み重ねなのかもしれませんが、協力してくれる人が多いと当事者の将来の選択の幅も広がるだろうなと感じました。
・現在ひきこもりや不登校の児童に対しての支援を行っているが、様々な視点、支援の幅が広がる有意義なイベントであった。今後も定期的なイベント参加をしていきたい。
・固定観念にとらわれず、児童には病気以外の何かが心の中に隠れていることを意識して関わっていく必要がある
・訪問看護の可能性を感じた。ただ、診断がない方は、利用出来ないのを残念に思った。
・実態とその対応事例を知ることができて良かったです。
・〝事例も聞けて、どの様に不登校、引きこもりの方と関わっていけばいいか知る事ができた。とても勉強になりました。
・当事者の価値感を伸ばす、自己理解のやり方、人生感に刺激を与えていけるように様々な方と関わっていきたいと思えました
・大変勉強になりました。訪問看護と福祉との連携は、更に必要だと感じました
・大変学びになりました。
・本人や家族が原因が分からない中、孤立してしまうことに対して、特性や個別性を理解して対応すること。生活リズムが基盤になることが重要だと分かりました。外国での対応方法の違いなども教えて頂き、よかったです。今後も知識を深めていきたいと思いました。ライスワークからのライフワークの考え方が面白いと思いました。

・訪問看護でできろこと、やりたいことが更に増えました。成人の利用者さんと関わる中で、考え方や習慣の再構築には多大な時間を要することを実感しています。改めて、お子さんの支援を充実させる支援者が増えるために、努力していきたいと思いました
・訪問看護ステーションとひきこもり支援の連動という発想がなかったので、とても良いヒントを得たと思います。
・生活を整えると、栄養から身体を整えることが脳の働きを整える、という事実を改めて確認できた。
・生の声の現場での問題解決に向けた取組みや、活動のヒントが聞けて、今後の行動や意識するきっかけが出来そうな気がした。
・幅広い知識をもつこと、専門の力をかりて支援することが当事者にとって利益となることを感じた。ありがとうございました。
・宮崎での支援を楽しみにしてます
・不登校でも、子供たちの未来は守られている。助けてくれる大人はいる。ゆっくり休んで、家族や第３者に支援してもらい、また社会とつながってほしい
・ケアの礎として、まずは人と人との信頼関係を構楽する必要性があると改めて感じるができました。

研修会２回目：田邊友也氏講演「安心できるつながりが、はじまりになる」

田邊氏講演のアンケート記載コメント

・ひきこもり、トラウマ、精神疾患と、トラクマインフォームドケアが理論的に学べた。言葉がけに、意識を持って関わってきたことが、間違っていなかったと知れたこと。更に、今後どう関わっていくかを考える機会になった。
・いろいろと納得できました。
・分かりやすい事例での説明だったので、理解できた
・自分自身に対してもNon-TICしてないかなと振り返りました。
・理論的に理解ができてとても為になった。時間上、最後まできけず残念でした。
・TICの大切さに気づかされました
・分かりやすかった。自分の息子もひきこもり約10年、理解させた支援方法が間違いなかったと思いました。
・トラウマインフォームドケアについて、重要性
・内容が具体的であった
・たくさん例の紹介があり、具体的で分かりやすかった。
・無意識に良くない対話をしてると気付けた
・non-TIC→TICへのかかわり、考え方理筋とテクニックについて
・あばれたり、不登校の子供に対してどう接していいのか悩む事が多くありました。その子だけを見るのではなく親も含めてケアをしていく必要があると学べました。でも、私たちにあってくれないご家族もあり、なかなかうまくいかない事が多いです。
・TIC、non - TICを知ることができた。訪看であり、研修でのことを活かし実践できたらと思います。
・今回の研修を受けて、自分の行動がnon-TICであったなと感じた
・TICの理解すること
・内容が非常に具体的でわかやすかったです。Youtube等で理解を深めていきます。
・今まで、なるべく傾聴することを意識していたつもりですが、気付かないうちにnon-TICを行っていた場面に気付かされました。
・TIC、刺激なりました。関わり方は月々勉強です、ありがとうございました。
・今までの自分の看護観を見つめ直す機会になった。TICの必要性をとても感じた。
・支援の根本的な考え方にフォーカスして自らの支援の有り方・考え方を見直すきっかけとなりました。
・自身の支援がTICに適っているか振り返りたいと思いました
・支接者側の行為、態度、姿勢、家族のTIC。対人関係の適度な程よい距離感が必要ですね。実感しています。

・TIC との向きあい方、普段の会話の中にもうまく取り入れる事が大切な事か理解出来ました
・視点を広げて納得、おはなしがスムーズにどんどん入ってきましたよ。
虐待から ADHD 似など現境や受けたことのなど初めて、知ったです。
トラウマ、条件つけ．複雑性 PTSD とその複雑性を初めてで学びました
TIC を土台に思いも合わせて深く納得、日々に話がしたいです。それが必要と思いました
・TIC を学びたいと思いました
・不登校児とかかわっていますが、暴力、虚言等があることもあり、トラウマとの関係（の影響）が納得いくものでした。支援者として自己決定に至る、対話プロセスが重要であるとわかりました。
・自分の支援を振り返る事ができました。先回り支援＝non-TIC である事、よく理解できました。
トラウマの背景、ひもづけされいく事、よく理解したうえで支援できたらとおもいました。
・TIC を意識して対話をするということ
・言葉つかいの「むずかしさ」、否定しないことのむずかしさ、対話の大切さ等よくわかりました。
・否定しないというシンプルなことでも、支援の中では難しく感じることがあります。テクニックも学びながらがんばろうと思えました。ありがとうございました。
・TIC、本人にある意思決定が大事であるか知ることができた。
・現場に沿った理論、話し方内容、身につまされる様に感じ勉強になりました。
・トラウマインフォームドケアという言葉と内容を少し分かった気がします。
・TIC、non-TIC の考え方、思いの持ち方を分かり易く、けれど情熱を持って語ってくれました
・TIC のお話し。いかに自分が non-TIC をしていたか…！！わかりました
・TIC 的なかかわりとは、その大切さについて理論的にわかりやすく伝えていただき、よくわかりました。
・TIC という実際の訪問で治用できる考え方と関わり方を知ることができたから
・実践していることの確認ができた
・よかれと思っていた支族が、non-TIC だったと思い、反省できた

トークセッションのコメント
・支援者側の立場として抱えるストレスにも着目されていたことが素晴らしく思った。
・TIC について、初めて具体的に学ぶことができた
・訪問支援の現状を知ることができた。（ドアに話しかける）

・当事者との関係構築だけでなくスタッフ同士の連携も必要と再認した
・わかろうとする態度。上から目線にならない、一緒に伴走していく
・会話の中で支援をしようと”提案”や”選択肢”を出すことがあったが、逃げ場のない質問が相手を苦痛にしていたのかと感じた。
・TIC の理解、対話、伴走支援
・引っ張るのではなく、底を支えるというイメージが響きました。
・会場とのやりとりや、当事者の内田さんの体験談に興味を惹かれました。
・訪問だから出来ることは何かという監的で関わりを持つ事がが支援する側として、社会的役割を果たす意義につながると考えました
・診療の限界を訪看がサポートするというのはとても共感できました。
・環境の変化はひきこもりではなくてもきつい。納得です。想像すること大切ですね
・TIC、トラウマをよく理解する支援する際に取り入れられる様にとりくみたい。
・内田さんの実体験もあってより聞きいりました。行くだけ訪問はなるほど。。。講演を深めるところで支援者側の在り方、関わり方を具体的なことで学びました
・支援者自身の心のケアの大切さも感じました。〃
・環境の変化を理解してあげる内容
・うっかり、non-TIC をやっていないかを気をつけるようにしたいと思えました。当事者の方のきもちをわかっているつもりでも、お話を聴いて気づかないことがあるとわかりました。
・支援者を増やしていくには、まず関係性であり、分かってくれる人を増やせるために信頼関係を築けていきたい。
・内田さんの事例「ほっといてもらえる方がよかった」の弁
・チームでの支援を否定しないこと等、楽しむユーモア必要、心がけようと思いました
・実際の声を聞くことができた
・田邊さんが、写真と同じように腕を組んでいる姿が見れてよかったです。当事者との会話、迫力さえ感じました
・心に残った一成功体験を引っぱりあげるのでなく支えてあげる
・トークの内容が訪問看護の効果にシフトしていましたが、最後に「対話して納得した上で判断する」支援の仕方という話が良かった。
（自我ができてきて自力で動けるためには、外界（を知らないと自我さえ生まれない）＝自分を認めてくれる存在
・当事者の気持など本音の話がきけた。
・訪問支援について、実際のイメージができるようなやりとりでした。内田さんの体験にもとづくお話が、とても説得力があったと思います
・引きこもりから脱却された当事者様から素直な思いを聞くことかできたから質問がもっと沢山出て放しかった

・訪問看護支援者に対したトークセッションしてくれて勉強になった

イベント全体のコメント
・私白身、ソーシャルワーカーの勉強をしていて、大変参考になるお話や知識などたくさんのおみやげをありがとうございました。
・実践的な話はあまりないと冒頭言われていたが、十分、実践に役立たせたい内容ばかりだった。
・ありがとうございました。
・中高校生世代の子ども達にきいてほしいと思いました
・現在、不登校児童の相談支援をしているが家族支援の困難さを感じてます。
・当事者（ひきこもり経験者）のセッションを楽しみにしていました。内田さんの笑顔がステキでした。ピアとともに働く、専門職として、多くのことを学ばせて頂いてます。ピアスタッフという「専門職」大きな存在です。ありがとうございました。
・現在、発達障害の支援（放ディ・児発）をしており、不登校になってしまうと関われなくなり困っています。家族に対してどのように話しかけたらいいのか具体的に知れて良かったです。
・大変参考になりました。ひきこもりの方に限らず、対等に接する、相手を尊重する、家族支援も考えるというのは大切だと感じました
・トラウマをきっかけに、負の連鎖が広がっている構図ができあがる。TIC の考え方を理解し、行動し導いていくことで、本人を尊重した行動ができていくのかなと思う。
・具体的なスキルにも興味がある。
・精神科訪問が初めでで、特に不登校の子供達が多いので、すごく勉強になりました。自分が言ってる事が正いいのか。そうでないのか、いつも悩みますが、親御さんのサポートも含めて介入していきたいと思いました。
・これからの支援で活かせる内容であり、とても勉強になりました。ありがとりがざいました。
・TIC という言葉を初めて知りました。ありがとうございました。
・あらためて、コミュニケーションの大切さを実感しました。
・トラウスに対してだけにフォーカスするのではなくて、連相される物や音、環境なども理解して、相手の訴えに対してしっかり会話することが大事であり、こちらの勝手な思い込みを押しつけないようにしていきたいと感じました。
・熱量が高く、すくにでも実戦したくなりました。
・お話の中で、時に情報の共有（当事者との）が必要となるけれども、「待つ」というスタンスを大切にして、関わりたいと思いました。
・本人と家族を支える、否定しない支援の大切さを改めて感じました。ありがとうございました
・”わかろうとする気持ちを持ち続けると相手には伝わる”支援者として必要

な考え方だと感じました。上からの目線のことばに気をつける。ユーモアは必要。状況を見る必要はある。
・ゆっくりと本人と対話しながら、当事者を理解しようとする態度を相手に伝えながら場をわきまえた支援して行くことを改めて理解できました。ありがとうございました。
・専間職らしき人の中には、参加者の中で講演に反応うすい人もいるように感じました。専門職からなのか・・・？
・お互いに理解し合える環境やプロセスを築いていく
・支援に携わる同僚にもぜひ伝えたいと思う内容でした。実践に生かしたいです。
・ひきこもり支援について困っている相談員さんも多く、私の地域でも勉強会（研修会）をしていただきたいです。とても良い研修会でした。ありがとうございました。
・参加させてもらってよかったです。
・講演スタイルも考えられていると感じました。〞
・支払のむすがしさ・家族支援の大切さ・本人の意志を大切に
・支援者、ひきこもりの子を育てる親として、今一度考えを改める機会となりました。ミネラル不足”という言葉にも興味があります。またお話をききたいです。ありがとうございました。〞
・皆さんの集中している空気感が、すばらしかった
・よかれと思って”してきた関わりにハッとする大切な体験ができましたが、なぜか傷つきはありませんでした。今日の会自体の雰囲気で、TIC の意味に気づけたような気がします
・有意識な講演会でした

研修会３回目：山根俊恵氏講演「安心が生まれる場所づくり」

山根氏講演のアンケート記載コメント

・事例を挙げての説明であったため、状況や関わりが具体的で分りやすかった。

・以前、先生の研修会に参加したことがあり、今回も運よく参加の出来たことに感謝いたします。ひきこもり支援についての多くの学びを得ることが出来ました。本当にありがとうございます。〃

・対処事例が具体的で、良い情報が共有できた

・共感が大切だと頭では理解できているが実際はどうなのか、自分の行動を見つめなおすことができた

・家族支援のこと。こうあるべきではなく本人がどう思っているか。ひきこもりの人への対応が勉強になった。

・様々な事例をまじえてお話いただき、支援のイメージが沸きました。

・あくまでも本人の意思・意見を尊重すること、その為の関わり方や心持ちについて知ることができた

・本当にありがとう御座いました。よりそう気持と言う物を再確認させて頂いた気がします。以前暴言をはき（死けい、ころせと）親の私が助けてほしいとコスモス会親の会へそこで「本人がいちほん大変なんですよ」と月に１日の例会に出て親を助けてと思って入会したのが本人がつらいと気づいて娘に申し訳なかったと話した時、なぐらなかったのは、「てきではない」と思ってくれたのかなと思いました。いま娘もコスマス会の活動だけには参加する意味がわかりました。

・本人のやりたい事を尊重すると言われたのはそうだなと思いましたが、その方向がゲームだったりする場合、むずかしいなと思いました。

・親への支援が第一である事が理解できた

・不登校児のお宅へ訪問しているため、関わり方の見直しができました。

・具体的な事例が多く、わかりやすかった。

・初めて聞くことが多かった

・コミュニケーションの上で、「共感する事」の重要さを知りました。

・様々な事例の方と支援されてきた状況を伺うことができ、とても勉強になりました。本人の思いをきくことの大切さ、そのまま見守るだけでなく社会との接点ともてる準備としていく必要があるというお話に共感できました。

・家族が相談したいと思ってもらえるように、また本人さんとつながれるように信頼関係の構築が大事と、再認識した。本人を理解したいと考えること、共感することが大事と感じた。

・支援者として、今後の関わり方の知識を得られ、ヒントになった。

・具体的な事例を出してお話があり勉強になった。

・アウトリーチなど行っている中で、ご家族の気持ちも理解しつつ、本人の苦しい部分がどこにあるのか。そこを把握しようとしていても．否定につながっ

ていたりする。本人が何に困っているのか苦痛なのかを知る。自宅、本人の居場所、安全な場所（環境）をくずさないよう支援。
・具体的な支援内容、事例があって分かりやすかった。
・SNS 等以外の具体的なケース（事例）についての話をきけた。段階をふまえての支授が重要だと感じた。
・こんなに真剣に向き合ってくださっている方がいることにすごく感動しました。うれしい気持ちになりました。
・内容がとてもわかり易かった、質問に対してとても丁寧に答えて下さった。
・事例が多く興味深くきくことかできました。
・同じ事例を何件もかかえており参考になりました。特にどのように親と信頼関係を結び共感するか参考になりました。
・家族支援の大切さ、かかり方の難しさを感じた。
・家族支援について他研修でも学んだが今回の研修で事例も聞くことができ理解できた。回復の一歩支援、親がかわり本人が決める。必要におうじて服薬、本人によりそって支援

トークセッションのコメント
・引きこもり経験・支援の経験について聞く貴重な時間になったため様々な方々のお話しを聴けてとても勉強になりました
・体験談が聞けたこと
・具体的な声かけの側などが出てきてよかったです。
・行政は本人から連絡がないと動けませんという事を良くいわれます。本人が話かけられる状態でもなく、今の状況が話せないのにといつも歯がゆく思ってます。
・実際がよくわかった
・実際の事例を通じてのセッションであり、分かりやすかったです。
・リアルな課題に対しての対処方法など非常に参考になった。
・会場との双方向の質疑応答も参考になった。〃
・主体は本人
・当事者の方が今研修されていることが、とても大切なことだと思いました。不登校の児童の関わりについても参考になりました。〃
・事例など、実際の話でわかりやすかった。
・SST の振り返りにもなる、気付きができた。
・理解者が 1 人でもいると本人が前に進めるという話が心に残った。
・実際にケアマネとしての立場であり当事者でもあった方の話。地域で支える民生委員さんの支援、それに対する助言、具体策、確認ができた。
・質問を事前に、付箋に書くというのが良かった。手と挙げにくい人も質問できる。
・支援してる側の話をきけたのと、児童委員さんで寄り添っておられる方のお話もきけて良かったです。

・具体的な話を聞けて良かったです。
・支援の力が大きくなりました

イベント全体へのコメント
・今回は貴重な機会ですごく良い学びになりました。児童から成人の方まで幅広い事例をもとに話を聞くことができて分かりやすかったです。
・とてもすばらしい研修会でした。本当にありがとうこさいます
・いきなりのアウトリーチは、そもそも敵なのでとても危険であること。共感していくことで関わることのできる関係づくりができることが理解できた。ただ、それができるようになるのは、難しさを感じた。
・第１～第２回も参加したかったです。密度の高いセミナーでした
・自身の行動を見つめ直す良い機会となりました。ありがとうございました
・山根先生の情熱が伝わるとても心動かされる講演会でした。ありがとうございました。
・ひきこもり支援、アウトリーチ関わり方、まずは家族支援からという考えがとても学びになった。
・関わりのきっかけとなる人に対しての介入だけでなく、身近な支援者（家族など）への意識変容も当人が変わる重要なファクターであると解った。
・宮崎にも家族会あるんでしょうか？ひきこもりの子供をもつ母親の方で、とても苦しんでいる方がいます。同じ状況の人たちで交流があれば、一人じゃないんだと思ってもらったり、情報交換の場としてとても、いいのではないかと思います。
・社会的に意義深いセミナーと思った。社会実装が急がれると思った。
・訪問看護に２ヵ月前より働くことになり、とても難しく感じることがありました。特に不登校児との関わりが苦手なため、今回参加しました。様々な事例や経験談を聞けて勉強になりました。ありがとうございました。
・今回の研修も非常に参考になりました。ありがとうございました。
・支援者として勉強会の重要性。「当人に決めさせる」事が大事だという事。「共感」の重要性。参考になる話が多く、後でメモを読み返そうと思いました。ヒキコモリについて、どうしても「先のばし」する人がいる。ヒキコモリについて、危機感を持ってほしいと思いました。
・とてもいい研修で学びが多かったです
・わかりやすい説明で、入りやすかった。
・収穫となるお話を聞く事ができ、気付きが多かったです。ありがとうございました。
・イベント全体は、なごやかで、素晴らしいと思った。また、参加したいと思った。
・山根先生の話を直接聞けてとても参考になった。支援のあり方、関係性づくり、コミュニケーション法等をきけて良かった。〃
・とても勉強になりました。

・とても勉強になりました。
・訪問看護、利用することで社会のつながりができていく、訪看の利用について改めて理解しました。
・家族支援、本人理解、支援者のかかわりかたを学ぶことかできた。
・勉強になりました。ありがとうございます。

困難を抱える本人・家族への支援の在り方を学ぶ研修会
～3 回の研修会の総括＆各講師の支援共通姿勢～

今年度、当法人では３回にわたり、精神的・社会的な困難を抱える本人およびその家族に対する支援の在り方を学ぶための研修会を開催した。

講師として、訪問支援の現場で本人との関係性構築を重視する峯上良平氏、トラウマインフォームドケア（TIC）を基盤とした支援の実践を展開する田邉友也氏、そして家族支援の段階モデルを提唱し、長年にわたってひきこもりや精神障がいの家族支援に取り組んできた山根俊恵氏をお招きした。

３氏の講演はそれぞれの専門分野に根差した内容であったが、共通して語られていたのは、「本人や家族をどのように理解し、どのように関係性を築いていくか」という支援の根幹に関わる問いであった。支援の方法や手段以上に、支援者自身の“在り方”が問われる姿勢が印象的であり、それは現場に立つ私たちにとって大きな学びとなった。

三者の講演を通じて見えてきた、支援における共通の基本姿勢は以下のとおりである。

第一に、「本人中心の視点と尊重の姿勢」である。本人の意志や語りに耳を傾ける姿勢が、すべての支援の出発点となる。田邉氏は、否定や評価をせず中立的な態度を貫くことが、トラウマを抱える人々にとっての安全基地になると述べた。峯上氏も、本人の生活空間に入り込み、“される支援”ではなく“共にある支援”の重要性を強調した。山根氏は、ひきこもり状態の本人に対して直接関わるのではなく、まずは家族の視点を通して本人の想いを尊重する重要性を語った。

第二に、「信頼関係の再構築と関係性の持続的支援」である。支援の現場では、目に見える変化よりも“関係性の質”が支援の成否を分ける。焦らず、変化を急がず、相手のペースに合わせる「待つ支援」が求められる。田邉氏は、TIC の基本原則として「安全・安心・信頼・選択・協働」の５要素を挙げ、これらが人との関係に傷ついてきた人々にとって、回復への足場となるとした。峯上氏も「訪問とは信頼をつくる行為であり、信頼のない支援は押し付けになる」と語った。

第三に、「家族支援の重要性と段階的なアプローチ」である。山根氏の提唱する「家族支援の段階モデル」は、感情の整理、信頼関係の構築、情報提供、体

験の共有、本人理解、家族の変化、本人支援への展開という段階を経て、家族の視点と支援者の伴走により本人への支援につなげていく枠組みである。家族の不安や孤立を和らげることが、結果的に本人の支援にもつながるという考えは、他の講師の実践とも深く通じ合っていた。

さらに共通する視点として、「否定しない言葉の力」「多様性の受容」「語り直しによる自己肯定の支援」が挙げられる。どの講師も、支援の場における言葉の重みと、それが相手に与える影響に細心の注意を払っていた。支援とは、知識や技術だけでは成り立たず、人間としてどう向き合うかという倫理的姿勢が不可欠であるとあらためて実感した。

今回の研修は、対象者の抱える困難の背景に対する理解を深めるとともに、支援者自身の在り方を見直す貴重な機会となった。私たちは今後も、一人ひとりの尊厳を大切にし、支援を受ける人と共に関係性を紡いでいく姿勢を持ち続けたい。そして、実践のなかで迷いながらも、常に問い続けること、「この関わりは、利用者にとって本当に安心できるものであったか？」という自問を忘れずに歩みを進めていきたい。